

古墳時代箱式石棺墓を確認



内部西側から臼歯と赤色顔料 弧状の溝跡も、円墳の周溝か

延岡市教育委員会は10日、延岡城内遺跡の第52次発掘調査の成果を発表した。旧後藤邸などが立っていた城山公園北東側の約1万平方㍍を調査。古墳時代の箱式石棺墓や石器などが出土した。あすから13日まで一般に公開する。

調査地は野口遵記念館建設地内。市教委は5月、中旬から、同記念館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施し、判明した結果をまとめた。石棺や円墳が発見されたことが考案されるといい。箱式石棺の発掘は、上部がある状態で最も多くある。石棺は、上本体上に、最大60㌢四方の長方形に並べて置かれていた。本体上に、最大60㌢四方の同様の石12枚を頭を西向きに埋葬された。

周溝は最大幅47㌢(東西)・最大幅78㌢(南北)下部の石棺の組み合はせた井筒に、5㌢の鉄鍛冶(てつじ)で、だつた場合、溝の力が十分ではない。まだ、石棺内部の西側部分から圓の本(玉)から4世紀前半の古墳時代初頭の石棺と推察される。頭を西向きに埋葬された。

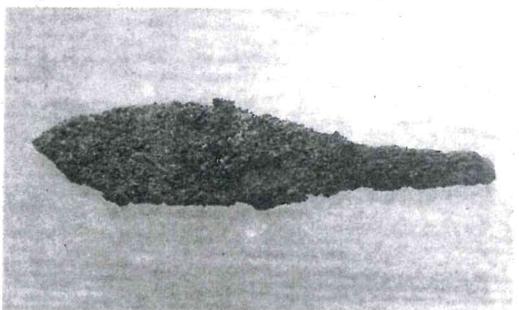
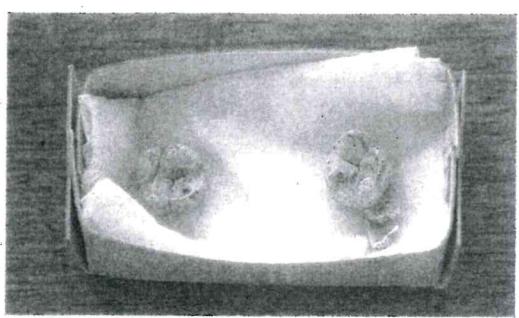
調査地では、石棺として矢尻に使う長い鉄鍛冶(てつじ)が出土した。その特徴から3世紀後半から4世紀前半の古墳時代初期とされる。頭を西向きに埋葬された。また、副葬品として矢尻に使う長い鉄鍛冶(てつじ)が、排水用の陶器や土器(はな)が出土した。底の部分から須恵器や土師(はな)器が完全にカーブの内側斜面から多くの川原石が出た。出土した状況ながら、円墳の可能性が考えられる。

古墳調査は、当時の城山公園は、河口も近くに位置する場所で、城山丘陵がシンボルとして存在し、古墳に埋葬された墓が見つかるところ。城山を



延岡市教委 野口遵記念館建設地で調査

城山公園東側周辺 墓域の可能性



古墳時代初頭のものとみられる箱式石棺の本体。頭を西向き(奥側)に埋葬されたと考えられる

箱式石棺内部から出土した臼歯

矢尻に使われた鉄鍛冶(てつじ)

一般公開はあすから13日まで。対策などを時間限定としている。その後、野口遵記念館の整備に合わせて、展示場内に移設復元され、展示公開する予定といふ。

一般公開はあすから13日まで。対策などを時間限定としている。